

## カラマツ *Larix kaempferi* (Lamb.) Carr.

マツ科 Pinaceae

1. 利用対象部位：樹皮

2. 組織形態：

樹皮は縦長の浅い割れ目が多数入り、縦長の細長い鱗片としてはげ落ちる。

内樹皮の基本構造は篩細胞層と柔細胞層の繰り返しである。篩細胞の層の中に単独の柔細胞が混じる。柔細胞はやや接線方向に配列する傾向がある。

形成層の活動により組織が外に押し出されて行くと篩細胞は押しつぶされるが、柔細胞は丸く膨らんで多少とも大きくなる。更に外側では1～数個の厚壁異形細胞からなる塊が形成される。厚壁異形細胞は短く、繊維とはならない。

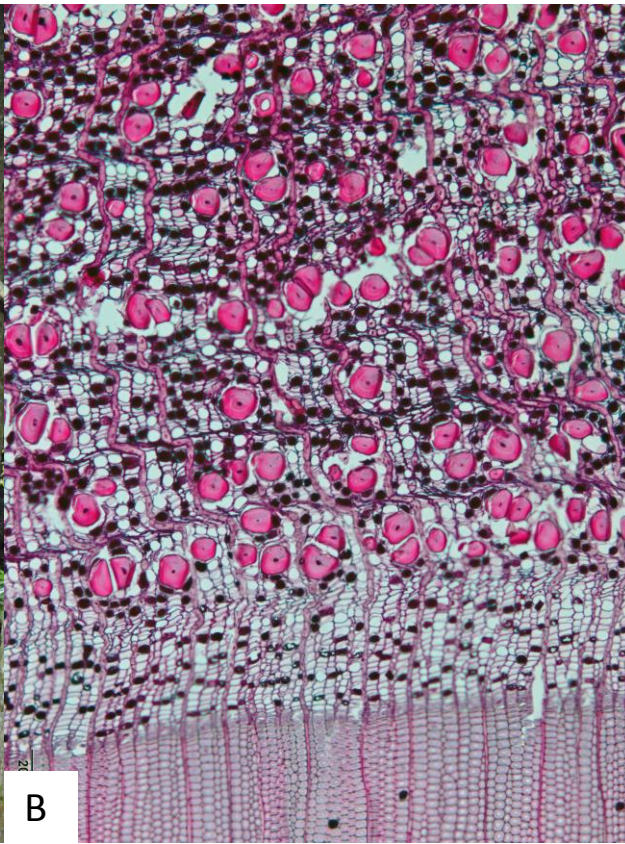
以上のようにカラマツの樹皮には繊維細胞が無いことから、編組製品の素材とはならないと考えられる。

3. 利用例：なし

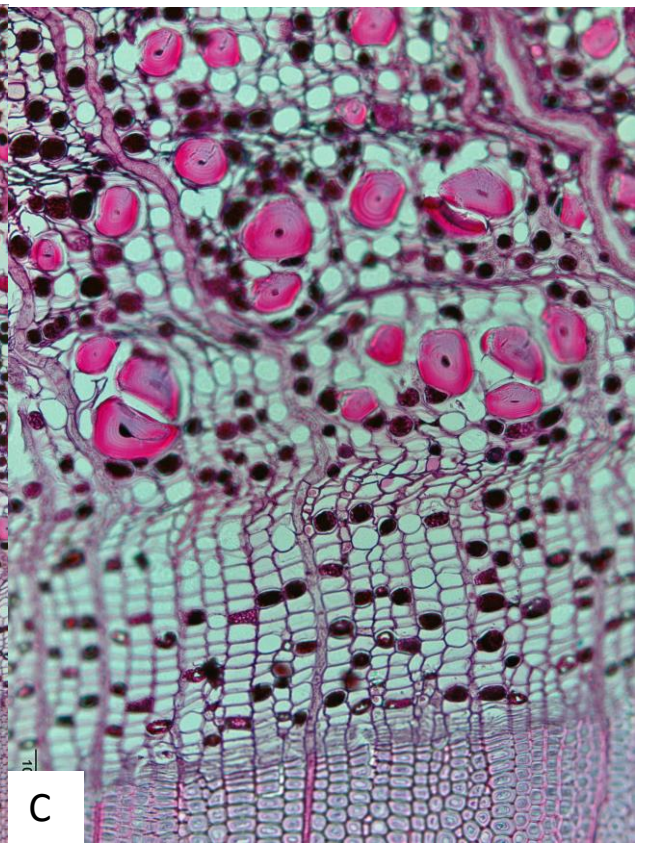
4. 遺跡出土遺物：なし



A



B



C

A:カラムツの樹皮(長野県上高地). B&C:内樹皮の横断面とその拡大. 画面下部に二次木部および形成層帯がある. 赤色に染色されているのは厚壁異形細胞、黒紫色で細胞内容物があるのが柔細胞、細胞壁が紫色で細胞内容物が無いのが篩細胞. 外側に押し出され、篩細胞が機能を失うと厚壁異形細胞が形成され篩細胞を押しつぶす. 樹皮の放射組織は単細胞幅.